

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書（平成 29 年度）

広報活動/専門医育成プロジェクト
IBD を専門とする消化器医育成プログラムの開発

研究協力者 藤谷幹浩
旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学分野 准教授

研究要旨：IBD 専門医の育成プログラムを創成するにあたっては、平成 21 年度に専門医のニーズや診療上の役割についての予備調査を行った。その結果、ほぼ全ての回答者が IBD 専門医は必要であると答えたが、IBD 専門医育成のプログラムを実践している施設は無かった。そこで、北海道地区をモデルとして専門医に求められる診療内容についての調査研究を行った。その結果、炎症性腸疾患の確定診断および治療方針の変更に関してニーズが高いことが示唆された。その後、新規治療の開発、治療目標の変化、難病法の改正や日本専門医機構が実施する「新専門医制度」の開始などの時代的変遷があり、IBD 専門医を取り巻く社会事情に変化が起こってきた。これを受けて、平成 29 年度初旬に IBD 専門医育成に関するアンケート調査を実施した結果、IBD 専門医制度の構築については約 3/4 のご施設が賛成、認定機関は JSIBD が適切、時期としては、消化器病学会専門医取得後との意見が多くを占めた。H29 年 10 月に日本炎症性腸疾患学会教育委員会（JSIBD）と合同ミーティングを行い、プロジェクトメンバーは本班会議のメンバーと JSIBD 教育委員会のメンバーの合同とすること、日本専門医機構の方針にとられない実質的な専門医育成することが話し合われた。今後、JSIBD と一体化して具体的な専門医プログラムの作成を行っていく。

共同研究者

鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座）
竹内 健（東邦大学医療センター佐倉病院 内科学講座）
岡崎和一（関西医科大学内科学第三講座）
二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）
安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）
辻川 知之（滋賀医科大学消化器内科）
渡辺 守（東京医科歯科大学 消化器病態学）
長堀正和（東京医科歯科大学 消化器病態学）
松岡克善（東京医科歯科大学 消化器病態学）
高後 裕（国際医療福祉大学病院消化器内科）
蘆田知史（札幌徳州会病院 IBD センター）
上野伸典（旭川医科大学内科学講座 消化器血液腫瘍制御内科学分野）
安藤勝祥（旭川医科大学内科学講座 消化器血液腫瘍制御内科学分野）
稲場勇平（市立旭川病院消化器病センター）
中村志郎（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科部門）
渡辺憲治（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科部門）
福島浩平（東北大学大学院消化管再建医工学分野）

分子病態外科学分野）

松井敏幸（福岡大学筑紫病院 消化器内科）
平井郁仁（福岡大学筑紫病院 消化器内科）
穂刈量太（防衛医科大学校内科）
金井隆典（慶應義塾大学消化器内科）
長沼 誠（慶應義塾大学消化器内科）
藤井久男（平和会吉田病院消化器内視鏡・IBD センター）
横山 薫（北里大学医学部消化器内科）
木村英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患センター）

A. 研究目的

平成 21 年度に、プロジェクト委員会を設け、班会議参加施設における IBD 診療の実態に関する予備調査を行った。その結果、IBD 専門医が必要であり、専門医育成の対象は卒後 5 年目以降の消化器内科医、消化器外科医とする意見が多数を占めた。しかし、現時点で IBD 専門医

育成のプログラムを作成・実践している施設は無かった。H22年度から、IBD専門医の診療現場における役割、地域医療社会での必要性、その立場やインセティブ、患者・家族からの必要性を明らかにする目的で、IBD専門施設、消化器科医、一般医からなる病診連携のコホート研究を立案した。本研究において、IBD専門施設、消化器科医、一般医間の双方向の情報交換を簡便に行う目的でクラウド型電子カルテシステムを構築し、前向きに患者の登録を行っていき、IBD専門医の必要性や役割を検討した。この結果、クローン病の確定診断や治療方針変更に関してIBD専門医のニーズが高いことが明らかになった。一方で、新規治療の開発、治療目標の変化（粘膜治癒をゴールとした治療戦略）、難病法の改正や日本専門医機構が実施する「新専門医制度」の開始などの時代的変遷があり、IBD専門医を取り巻く社会事情に変化が起こってきた。

本プロジェクトの目的は、IBD専門医育成プログラムに関する班関係者の意見を調査し、学会や厚生省科学審議会との連携によるIBD専門医育成プログラムを作成することである。

B. 研究方法

IBD専門医育成プログラムに関する班関係者の意見の再調査

近年の治療法の発達や専門医制度の変遷によって、IBD専門医育成プログラムに関する意見も変化している可能性がある。そこで、アンケート調査票を用いて班関係者の意見を集約する。

学会や厚生省科学審議会との連携によるIBD専門医育成プログラム（案）の作成

の結果およびIBD専門医ニーズの地域特異性、および厚生科学審議会疾病対策部会が提唱する

「難病の医療提供体制の在り方」との整合性を考慮して、日本炎症性腸疾患学会との協力のもと、IBD専門医育成プログラム（案）を作成する。

C. 研究結果

IBD専門医育成プログラムに関する班関係者の意見の再調査

アンケート調査の結果、75%の施設ではIBD専門医制度が必要であると回答した。一方、不要であるとした施設からの理由としては新専門医制度が整備されていない現状では困難、IBDを診療する医師が逆に減少するおそれがある、すでに多くのIBD専門医がいる、IBDは全ての消化器病医が診療すべき、インセティブがはっきりしない、などの理由であった（図1）。専門医制度の認定組織は日本炎症性腸疾患学会（JSIBD）とすべきとの意見が大半を占めた（図2）。

図1

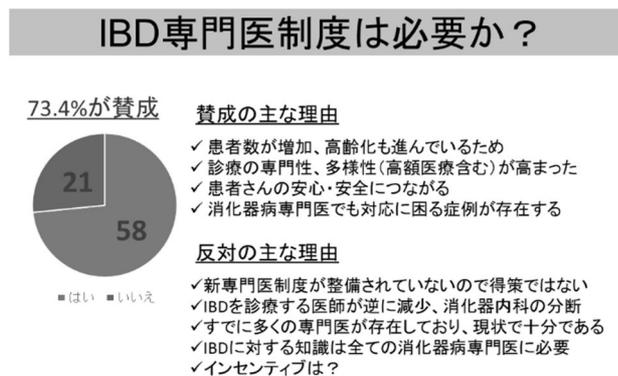
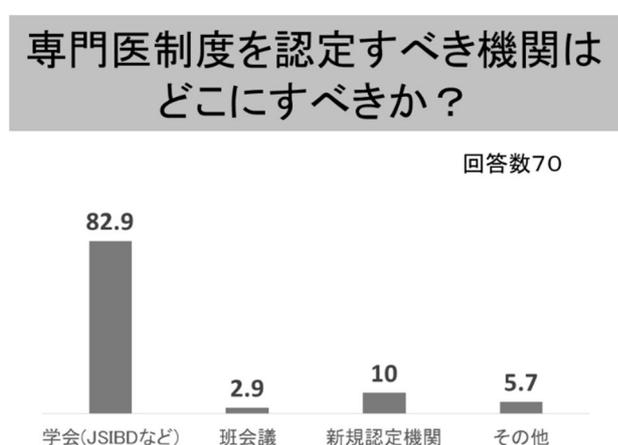


図2



専門医を認定する時期については消化器病などの2階建て部分の専門医を取得した後との意見が多かった(図3)。しかし、専門医認定基準については、指導施設での研修、学会への出席、講習会への出席、e-learningの受講、専門医試験の実施など多くの意見があった(図4)。

図3

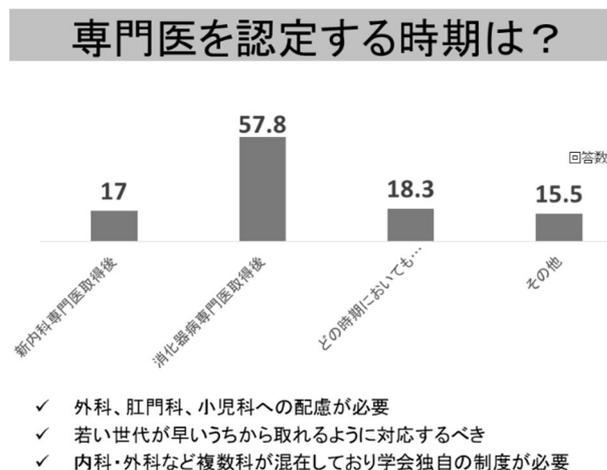
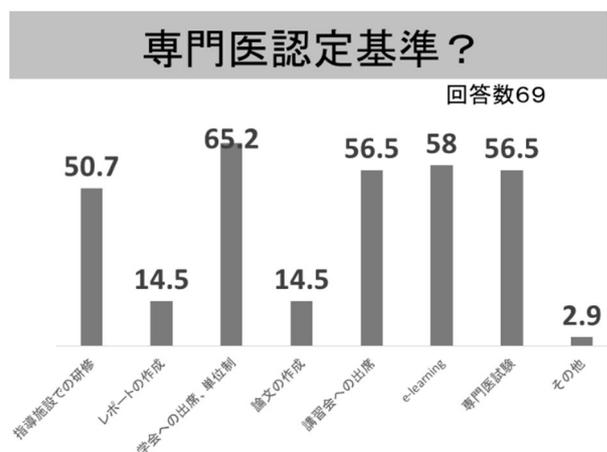


図4



学会や厚生省科学審議会との連携による IBD 専門医育成プログラム(案)の作成

の結果をふまえ、JSIBD 教育委員会との合同ミーティングを開催した(2013年10月13日、福岡)。そこで、鈴木班「啓発・専門医育成プロジェクトミーティング」のメンバーと JSIBD 教育委員会のメンバーとを統一すること、名称は認定医が適切であることが提

案された。一方で、認定方法については、試験を行うか、研修等を行うか、セミナーや講習会、e-learningの受講はどうか、などの議論があり、今後の検討課題となった。また、インセンティブについては、厚労省および JSIBD ホームページでの認定医氏名の公開が提案されたが、難病拠点病院指定の選定基準との関連づけや新規治療を行う上での資格とできるか、などの議論が行われ今後の課題となった。

D. 考察

H22 年度に集計した IBD 診療の実情および専門医の必要性に関する予備調査アンケートの結果および北海道地域をモデルとした IBD 専門施設、消化器科医、プライマリ医を対象としたコホート研究から、IBD 専門医のニーズとしては、診断困難例における確定診断、病態の変化にともなう治療変更の決定が重要であると考えられた。また、今年度行ったアンケート調査では、75%の施設が IBD 専門医制度は必要であると回答し、専門医制度の認定組織は JSIBD とすべきとの意見が大半を占めた。また、認定時期は消化器病専門医などの2階建て部分が終了した時期との意見が多かった。しかし、認定基準については一定の見解は得られなかった。その後、2017年10月に行われた JSIBD 教育委員会との合同ミーティングで、JSIBD 教育委員との強い連携によって進めることが確認された。今後は、認定方法(試験の要否、指導施設での研修の要否、セミナーや講習会、e-learningの位置づけ)を決定していくとともに、十分なインセンティブの獲得についても努めていく予定である。

E. 結論

JSIBD との連携のもと、IBD 専門医育成プログラムを作成することが確認された。今後は、認定方法(試験の要否、指導施設での研修の要否、セミナーや講習会、e-learning の位置づけ)の決定、十分なインセンティブの獲得を目指していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Fujiya M. Detection and characterization of colitis-associated cancer/dysplasia: Based on reports from the JDDW2017 and meta-analyses of prospective studies concerning endoscopic procedure.

Digestive Endoscopy (in press)

Ando K, Fujiya M, Nomura Y, Inaba Y, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Tanaka K, Sakatani A, Ueno N, Kashima S, Moriichi K, Mizukami Y, Okumura T. The incidence and risk factors of venous thromboembolism in Japanese inpatients with inflammatory bowel disease: A retrospective cohort study. *Intest Res* (in press)

Nomura Y, Moriichi K, Fujiya M, Okumura T. The endoscopic findings of the upper gastrointestinal tract in patients with Crohn's disease. *Clin J Gastroenterol* 10(4):289-296, 2017.

藤谷幹浩 . 腸内細菌を標的とした消化器疾患の治療法 . *INTESTINE* 21(4): 341-350, 2017.

2. 学会発表

Konishi H, Fujiya M, Ijiri M, Tanaka K,

Fujibayashi S, Goto T, Kashima S, Ando K, Takahashi K, Ueno N, Sasajima J, Moriichi K, Tanaka H, Ikuta K, Okumura T. Ferrichrome, a tumor suppressive molecule derived from *Lactobacillus casei*, inhibits the progression of colorectal cancer via the endoplasmic reticulum stress pathway. DDW 2017 (AGA) Chicago 2017.05.06

Ando K, Fujiya M, Nomura Y, Ueno N, Inaba Y, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Takahashi K, Tanaka K, Goto T, Kashima S, Sasajima J, Moriichi K, Mizukami Y, Yamada S, Nakase H, Okumura T. The incidence and risk factors of venous thromboembolism in Japanese inpatients with inflammatory bowel disease: A retrospective and prospective study. AIBD2017 Orlando 2017.11.19

Moriichi K, Fujiya M, Sugiyama Y, Iwama T, Ijiri M, Tanaka K, Takahashi K, Ando K, Nomura Y, Ueno N, Kashima S, Inaba Y, Ito T, Okumura T. Efficacy of quantitated autofluorescence imaging endoscopy in patients with ulcerative colitis: A multicenter study. AIBD2017 Orlando 2017.11.19

Matsuoka K, Naganuma M, Tanida S, Kitamura K, Matsui T, Arai M, Fujiya M, Horiki N, Nebiki H, Kinjo F, Miyazaki T, Matsumoto T, Esaki M, Mitsuyama K, Saruta M, Ido A, Hojo S, Takenaka O, Oketani K, Imai T, Tsubouchi H, Hibi T, Kanai T. Efficacy and safety of anti-fractalkine monoclonal antibody, E6011, in patients with Crohn's Disease who had lost response to anti-TNFalpha agents: A multicentre, open-label, Phase 1/2 study. ECCO2018

Vienna 2018.02.18

藤谷幹浩．潰瘍性大腸炎における臨床ニーズとモデル作製・評価「潰瘍性大腸炎における治療の現状・臨床ニーズ」．技術情報協会セミナー、東京 2017.07.18

藤谷幹浩．プロバイオティクス由来の活性物質ポリン酸を用いた新規炎症性腸疾患治療薬の開発．疾病克服戦略会議 疾病克服戦略会議 - 潰瘍性大腸炎 - 、東京 2017.09.21

井尻学見、藤谷幹浩、上野伸展、奥村利勝．乳酸菌由来フェリクロームによる抗腫瘍メカニズムの解析．第45回日本消化器免疫学会、東京 2017.09.28

藤谷幹浩．プロバイオティクス由来分子を用いた難病・癌治療薬の開発．第60回ヒューマンサイエンス・バイオインターフェース、東京 2017.11.27

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし